

新高通信



第66号

秋田県立新屋高等学校

平成30年度の新屋高校を盛り上げてくれた全ての人に感謝！

校長 櫻田 博憲



3年生という主を失い物寂しさを感じさせる教室。少し前までそこで生き生きと、時に睡魔の誘惑に抗しながら授業を受けていた姿が彷彿として蘇ります。部活動でも立派な成績を残した学年でした。2年生、学校の中堅として学習に部活動に力を発揮し、今や頼りがいのある存在になりました。1年生、入学後すぐの頃は戸惑いが見られていた表情にも今は確かな成長が感じられます。今年度在籍した全ての生徒の皆さんに対して、新屋高校のために大きく貢献してくれたという意味で感謝したいと思います。

先生方には、工夫を凝らし生徒の考える力を伸ばした教科指導、学級担任や学年部としての生活指導や将来の進路に関する指導、休日も心身を鍛えた部活動指導など、多忙な中、“生徒ファースト”の精神で頑張ってくれました。感謝します。

また、JR新屋駅でのツーロック指導や挨拶運動を含む朝夕の登下校でのご指導と見守り、地域の祭典や活性化行事、施設訪問等での活動の場の提供とご指導、学校評議員会や地域懇談会等での御助言等々、地域の皆様に対し、心から深く感謝申し上げます。

そして最後に、ご家庭で我が子を励まし、支えてくれた保護者の皆様にも、深く感謝申し上げます。

生徒の皆さん、感謝の気持ちを持って新たな自覚が生まれます。身の回りの人たちの思いを感じ取り、新年度も“前へ”進むことをお互いに誓い合しましょう。



学校関係者評価会議兼第2回学校評議員会の様子

今年度の進路状況について

進路指導主事 戸坂 昌成

国公立大の前期発表も終え、多くの卒業生の進路が決定してきています。今年度の進路状況について概要をまとめてみたいと思います。

【進学】今年度の秋田大学、特に教育文化学部はかなり苦戦しました。これは、本校だけでなく他の市内高校も同様のようなことです。ということは、これまでよりも多くの県外勢が受験に来たのではないかと考えられます。都内の私立大学の定員厳格化がいられていますが、その影響もあるのかもしれませんが、この傾向は、次年度以降も続くでしょう。国公立大志望の人は、地元のみにとらわれず視野を広くしていく必要があるでしょう。また、私立大学も東北学院大の難化傾向が顕著です。以前であれば合格していたであろう層が昨年あたりから受からなくなってきています。いずれにしても、学力勝負を挑んでいかなければいけません。普段からきちんと実力を養うようにしてください。

【就職】求人は今年度も好調でした。未だに採用数を確保できなかった企業からの電話がかかってくるので、来年もまだ求人は好調のままと思われる。特に、運輸や自動車整備といった業界の人手不足が深刻のようです。このような状況ですので、就職希望の生徒は、企業見学などに積極的に参加し自分に合った仕事をしっかりと探してほしいものです。また、このところ公務員希望者も年々増加してきています。数年前まではほとんど合格者がいなかった、行政職の合格者も毎年コンスタントに出るようになってきています。公務員試験は、勉強量が合否の鍵になってきます。希望者は早めに準備に取りかかってください。

進路志望・決定状況

3月11日現在

進路状況	合計	国公立大	私大	短大	専門校	民間	公務員	全く未定
志望者数	174	21	51	26	48	19	8	0
内定者数	161	12	49	26	48	19	7	0

卒業証書授与式

第34回卒業証書授与式が、3月1日(金)午前10時30分から第一体育館において挙行されました。式では、代表の佐藤瑞起さん、櫻田博憲校長から卒業証書が授与されました。校長式辞の後、在校生代表の山下海斗さんが「先輩方の行動一つ一つが、私たちにあって模範とすべきものでした。先輩方と別れは少し寂しくなりますが、私たちが先輩方との日々を思い出し、これからの新屋高発展のために一歩ずつ進んでいきます」と送辞を述べると、卒業生代表の田中美優さんが、「仲間達との強い絆が出来たのは、多くの、学周行事を一緒に経験出来たからこそです。周囲への感謝を忘れずにこれからの人生を一歩一歩歩んでいきたいと思っております。」と答辞を述べました。

式が終了し、各クラスで最後のHRが行われ、一人ひとりに担任が卒業証書を手渡し、174名の卒業生が新屋高を巣立ちました。



表彰式・記念品贈呈式・同窓会入会式

2月28日(木)、皆勤賞29名、学校賞6名、特別活動賞30名に対する表彰が行われました。また、記念品贈呈式および同窓会入会式も行われ、3年生たちが学校や同窓会との絆を再確認したようでした。クラス幹事や部活動代表の生徒たちは、今後同窓会の先輩と連携し、OB・OGとして活動の中心的役割を担うこととなります。

後期校内研修報告

研修部主任 伊藤 朋子

前期は、今年度の進路指導や生徒指導に必要とされる、小論文進学研修会や生徒理解に関する研修会を行いました。また、新学習指導要領に関する伝達が国際教養大で行われたことに伴い、8月の新学習書道要領の伝達報告会、9月の高大接続改革に関する研修会を行い、「これから求められる力」を共有しました。夏期休業中には2名の職員が河合塾仙台校で小論文の添削についての研修を受講し、説得力のある小論文の材料探しや構成のしかたについて報告がなされました。

授業力向上について、10月には、国語、商

業、保健体育の研究授業を行い、研究授業後はワークショップ型の研修会を行いました。例年通り、前後期一回ずつ互見授業や授業アンケートを行い授業者個々の授業力の向上も図っています。

その他の研修も含めて1年間の研修については、「研修集録」にまとめ、ホームページで発表する予定です。

保健室から

養護教諭 加藤 亜季

今年度の保健室来室者数は768人(3月4日現在:内科的理由608人、外科的理由160人)、出席停止者数は58人(3月4日現在:インフルエンザ53人、その他の感染症5人)でした。今年度は昨年度よりも来室者数235人・出席停止者数40人減少しました。これはみなさんの自己管理能力が高まっている証拠だと思います。食事・運動・睡眠は健康で過ごすためにとても大切なことです。これらの生活習慣が乱れると体調を崩しやすくなり、保健室へ来室することになっているように思われます。

また、様々なストレスが原因となり、来室している生徒も多く見受けられました。適度なストレスは決して悪いものではありません。しかしながら、過度なストレスは心身の健康に良くありません。ですから、みなさんにはストレスとの向き合い方を覚えてほしいと思います。がんばることは大切ですが休養をとり、思い切り楽しいことをするのも心身を健康に保つためには大切なことです。

心身の健康があって初めて様々なことができます。自分自身の身体と心と向き合い、どのようにすればよいのかを考えてみましょう。そして、困ったときにはお家の人や先生、自分が信頼できる人に話をしてみてください。

先輩講話

3月12日(火)、大学へ進学した先輩や、就職し第一線で活躍している卒業生を招いて、進路に関する貴重な体験談をお聞きしました。在学中の勉強方法や集中力を高めるコツ、時間の使い方などの具体的なアドバイスを聞き、卒業後の自分の姿を思い浮かべることができた生徒も多かったようです。

1・2年生は進路志望を達成するため、先輩方のアドバイスを活かし、決意も新たに頑張っている様子でした。

